子育て経験が子育て支援の提供に及ぼす影響

松井真一（愛知学院大学）

1.　問題の所在

子育て支援施策が次々と設けられる現代においても依然として子育て世代から祖父母世代へと向けられる支援期待は大きい。このような状況のなか、子育て世代が受ける支援の様相に大きな変化はなく、祖父母が近くに住んでいることや子育て世代の本人が娘であることが支援を受ける確率を高めることが知られている。一方で子育てを支援する側からの要因については、男性よりも女性が支援者になりやすいといったことは知られているものの、支援者の経験からの考察は少ない。子育ては長期に渡って比較的少数で担われるため、支援者の経験が世代を超えて踏襲される可能性は十分に考えられる。本報告では、祖父母世代の子育て経験が子育てを支援する側に回った際に如何に影響を与えるのかについて検証する。

2.　データと方法

分析に使用するデータは、国立社会保障・人口問題研究所が 1993 年から 5 年おきに実施している「全国家庭動向調査」である。同調査は、出産・子育て、日常でのサポート資源、夫の家事・育児などの家庭動向を含んだ全国規模の大標本調査である。報告では第 5 回（2013）、第 6 回（2018）のデータを利用する。

「全国家庭動向調査」では回答者と一番上から 3 人目までの子および子世代の子ども（孫）に関わる情報を尋ねているため、分析では回答者を「祖父母世代（G1）」、回答者の子を「子世代（G2）」、子世代の子どもを「孫世代（G3）」と位置付ける。分析対象は、少なくとも現在 18 歳以上の子が 1 人以上おり、かつその子にも子どもがいるケースとした。各回の該当ケース数は G2 を基準としてカウントし第 5 回（4,007）、第 6 回（4,237）である。従属変数となる祖父母世代からの子育て支援の提供は「孫に関わる経費」、「孫の身の回りの世話」の有無を用いる。独立変数となる子育て経験は、祖父母世代の子育て経験である「あなたが働きにでているとき、子どもの世話をする（した）のはだれですか」、「経済的に困ったとき、頼りにする（した）のはだれですか」を用いる。

3.　結果

G2 世代において「孫に関わる経費」または「孫の身の回りの世話」について少なくともどちらか一方の支援を受けた者は第 5 回（第 1 子 732 人、第 2 子 567 人、第 3 子 157 人）、第 6 回（第 1 子 778 人、第 2 子 641 人、第 3 子 185 人）であった。また回答者である G1 世代の子育て経験で「働きにでているときの子どもの世話」で上位であったのは第 5 回（夫の親 293 人、保育士 176 人、）第 6 回（保育所・有料預かり施設 296 人、夫の親 254 人）、「経済的に困ったとき頼りにする人」で上位であったのは第 5 回（あなたの親 474 人、夫の親 91 人）第 6 回（あなたの親 551 人、夫の親 119 人）であった。クロス分析からは G 1 世代において「あなたの親」、「夫の親」からの支援を受けた経験がある者ほど G2 世代の第 1 子への子育て支援を行う傾向が確認された。第 2 子以降を含めたより詳細な結果については当日報告する。

（キーワード：子育て経験、子育て支援、支援の世代間継承）